



**マセ** マグ・イゾベール社のフランソワ・ザビエ・リエナルさんのことは、私もよく知っています。彼は「津は交通の便も良く、ビジネスを拡大し根付かせるために非常に理想的な場所である」と語ってくれました。

**市長** それはとてもうれしいですね。また、同社は2015(平成27)年末までに150億円の出資を計画していて、地元の大学や高校からも75人ほどの新卒者を雇用することを予定しています。これは同社が地域に密着した日本の企業として、この地に溶け込もうとする姿勢のあらわれで、これがとても重要なポイントなのです。

**マセ** 日本の企業として、日本人や日本の技術者と共に働くという考え方はですね。

**市長** そうなんです。大きな投資だけでなく、地域や地元の企業とのつながりを持っていただけるので、私たちは同社の進出を歓迎しています。そして、大企業だけでなく中小企業もフランスと交流を深めたいと望んでいるのです。

**マセ** 昨年末、前葉市長にお会いした時、日本とフランスの中小企業間の交流についてお話を聞かせていただきましたが、中小企業間の交流は大きな可能性を秘めていると思います。一番大切なことは、これまで取り組んできた日本とフランスの両地域、そして企業同士の交流を津市が今後どのようにサポートしていくかということです。

## 長所を融合して強さを増す

**市長** フランスの企業は、海外展開に向けたビジネス能力に長けています。津市内にあるいくつかの中小企業も、海外での事業展開を望んでいます。その両者が協働することはとても重要で、お互いの長所を生かしていけば、世界を視野に入れたビジネスを展開することが可能になると

思います。

**マセ** それは重要なポイントですね。それぞれが持つ能力や知識、マーケットは異なっていますが、両者が融合することによって強さを増し、さらに良い業績につなげていけます。それによって、日本とフランスだけでなく、他のアジアの国々やヨーロッパの国々にも市場を拡大することができるでしょう。そして、もうひとつ重要なことは、2013(平成25)年3月に日本とEUが経済連携の交渉を開始することに合意したことです。

**市長** 経済連携協定(EPA: Economic Partnership Agreement)ですね。

**マセ** この協定を結ぶことで、これまで以上にビジネスチャンスが増えると考えられますので、今からそのための準備をしておくことが必要です。日本とフランスの企業同士の交流は、今後のビジネスチャンスを生かすための価値ある行動だと思います。

**市長** EPAの交渉が始まることで、公的な支援を必要とする企業もあると思います。津市は2012(平成24)年11月にパリ地域経済開発局(ARD: Agence Régionale de Développement Paris Île-de-France)との間で、産業分野における経済交流協定を結びました。この協定は、フランス企業と津市内の企業との経済分野における交流の促進と、商談を成立させるためのさまざまな情報提供を行い、最終的には合意に向けた支援を行うものです。この他に、国際的な貿易会社で勤務経験がある海外連携コーディネーターを配置し、中小企業にさまざまな情報を提供して、企業の実務活動のサポートも行っています。



**マセ** フランス大使館としても、津市が行う経済交流の取り組みや活動を喜んで支援していきたいと思います。他の自治体の手本になりますし、日本とヨーロッパの企業間のビジネスチャンスにもつながると思います。